

参考資料：岡山県上道郡古都村史、現代古都の郷、ふるさと古都
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）、岡山市の地名

古都村内には南方の内山城、穴甘の穴甘城、藤井の藤井城の3つがある。何れも室町時代に作られた山城である。

藤井城（藤井）

藤井の山上の藤井城はおん山城とも伝わっている。藤井城は内山城と同様に沼城の出城であったと云えよう。

【参考資料：『西大寺の城跡』 西大寺愛郷会 昭和49年刊行】

旧山陽道の北側に面し旧本陣安井家のすぐ西近くに、大榎2本と、もくの木1本が目立つ。

そのお宮が素盞鳴神社で、その西側が御山（おんやま）という低い丘をなしている。

城跡はこの山上（51m²）にあるが、今は山は一面のブドウ畑である。山頂の東部の松林の中に、もと古墳らしい長方形の凹みがある。

この城は一名を「おん山城」といい、「備前国誌」は「藤井村、一名おん山城。城主、中山備中守、今に凡そ方一町半計りの築地跡あり。本丸より北に当り、二の丸と伝ふ所有り。」と。

「吉備前秘録」には城の説明はないが、「中山備中守信正は上道郡古都の庄を領す。宇喜多の舅なり。直家が為に横死す。」と。

「東備郡村誌」には、一名「たん山城跡。古都庄、中山備中守の居城と伝ふ。同人内室の墓、藤井村にあり。五輪の石碑立つ。中山のち沼城に遷る」とある。

しかし、現在は五輪塔は見あたらない。